

モロッコの若者たちへーサハラウィ青年からの手紙

ターレブ・アリー・サーレム

https://www.elindependiente.com/opinion/2025/10/05/carta-joven-saharai-juventud-marroqui/#google_vignette

今まで私は、こうして皆さんに直接語りかけることなど一度もありませんでした。私たちの間には絶えず立ちの壁がありました。プロパガンダや憎しみそして沈黙の壁です。けれども今、あなたたちが街頭に出て、息が詰まりそうな不正義に抗して声を上げている光景を見て、語りかける必要があると感じたのです。

私はサハラウィです。あなたたちの国によって余儀なく追いやられた避難先で生まれました。砂の世界の真只中で、私の同胞たちがどんなに傷つきながらも、大義を守り、生き延びてゆく姿を見ながら育ちました。また同時にモロッコによって占領された地域では、同胞たちが弾圧の被害者となり、拷問、収監あるいは消息不明となっていることを見てきました。被占領地では軍靴に骨を砕かれながらも、兄弟たちが自由を求めて叫び続けています。

けれども今日あなたたちに手紙を書いているのは、憎しみからではなく、真実から生まれる誠実さがそうさせるのです。それは私たちサハラウィをいつも特徴づけてきた真実で、あなたたちもまた同様に犠牲者だからです。

あなたたちからパンを奪い、声を奪い、未来さえも奪う、そんな体制の犠牲者です。中身は空っぽの民族主義を教え込み、私の故郷を占領してそれを勝利として押しつけ、その一方で皆さんの町からチャンスを、住まいから尊厳を取り上げてしまっています。

その同じ権力はあなたたちに国外移住を仕向け、スペイン、アルジェリア、ヨーロッパに対する政治的武器としてあなたたちを利用しています。この、貧困を日常化し腐敗を風景に変えてしまっている体制こそ、私の同胞たちを鎖につなが留めている体制なのです。

ですから私たちは敵ではありません。互いに、それぞれの鏡です。サハラウィの血とあなたたちの忠誠心、それも多くの場合は押し付けられた忠誠心ですが、これらを餌食に私腹を肥やすことしか知らない、そんな腐敗したシステムの下には未来はありません。

ここではっきり言いますが、サハラウィの大義はあなたたちの不幸の根源ではありません。あなたたちを貶めている問題ではないのです。これはあなたたちの気をそらすための口実です。彼らはあなたたちに向かって「サハラは不可侵の大義だ」と言う一方で、あなたたちの賃金を掠め取り、多国籍企業に売り渡し、沈黙を強制しているではありませんか。

サハラウィのリーダー、故エル＝ワリー・ムスタファー・サイエドが半世紀前、彼の歴史的な演説 The Africa of nations の中でこう告げました。「サハラウィ人民の闘いは、モロッコに占領された自分たちの領土の解放だけではなく、モロッコ



人民が現体制から解放されるためでもある」。この言葉は今日も、おそらくこれまで以上に、生きています。なぜならあなたたちの蜂起によって、この体制がサハラウィを抑圧するようにあなたたちも抑圧していることが明確にされるからです。

今日、あなたたちが立ち上がる時、あなたたちは孤独ではありません。サハラウィたちの目は、敬意を込めて注意深くあなたたちを見つめています。体制の壁に生じたどんな亀裂でも、サハラウィにとって間違いなく牢獄の亀裂を意味するのです。

皆さんの中には、サハラウィは裏切り者で、アルジェリアによるでっち上げ、また脅威であり、「王国の統一」を脅かす危険なテロリストだと教え込まれ、そう信じ込み続けている人もいるでしょう。しかしその作り話の更に向こうを見つめてください。私たちはあなたたちの敵ではありません。あなたたちを打ちのめしているこの国家の暴力が一体どこまで及ぶのか、それを示す証が私たちなのです。私は傷心を抱いてあなたたちに語りかけていますが、同時にまた希望も抱いています。なぜならあなたたちのような世代、幻滅と怒りの中で育ったZ世代が決意して立ち上がれば、私たちみんなを搾取するこのシステムが崩壊する日はおそらく遠くないからです。

あなたたちは腐敗に対し、弾圧に対し、未来を手に行きたくないことに對して叫びを上げています。

サハラウィは 50 年間、同じことを叫び続けています。

あなたたちはパンのため、自由のため、正義のために闘っています。サハラウィもそうなのです。

もしかするとある日、意外にも早く、私たちの声がひとつになるかもしれません。そうなる、今私たちを分断している権力はまさしく震え上がるでしょう。

その時が来るまで、正面からあなたたちを見つめて、抵抗への声援を送ることにします。降参しないでください。一度胸で目を覚ました尊厳は、もう眠りにつくことはないでしょう。

敬意と真実を込めて、サハラウィ青年より

ターレブ・アリー・サーレム